

食のイノベーション推進事業の取組状況について

1 要旨・目的

農水産事業者の「稼ぐ力」を高めることを目的に実施している「食のイノベーション推進事業」について、取組状況を報告する。

2 現状・背景

県では、新たなビジネスの創発を希望する意欲的な農水産事業者の経営発展を促すため、多様な業種の企業と農水産事業者が連携し、専門家のアドバイスを受けながら、新商品やサービスの提供など、新たな「食」のビジネスを創発する取組を進めるプログラム「Hiroshima FOOD BATON（ひろしまフードバトン）」を実施しており、令和7年度の募集を4月30日から開始している。

3 これまでの採択者に係る取組概要

(1) 令和4年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：薬局 DE 野菜（やっきょくでやさい）

（ア）起案代表者：株式会社 FARMERS PROFIT 竹内正智（広島市）【青果物卸売業】

（イ）取組内容

- ・健康をテーマにした野菜販売の「棚」を調剤薬局に設置。
- ・ニッチな野菜など流通の少なかった野菜の販路開拓・生産者育成に挑戦。

（ウ）これまでの成果

- ・薬局という新たな野菜の販売先を開拓し、新たな販売先を創出。
- ・ニッチ野菜については、JA 全農ひろしまと協業することで無印良品や県内量販店への取扱いが拡大し、100 店舗での取扱いを達成。



イ プロジェクト名：HIROSHIMA HYBRID DESIGN（ひろしまハイブリッドデザイン）

（ア）起案代表者：株式会社 ATORA 小野 敏史（広島市）【食品製造業】

（イ）取組内容

- ・高品質な冷凍食品の商品化で、飲食店向けに食の新たな可能性を追求。
- ・サイズの小さい未利用牡蠣などの県産食材を使い新たな価値創出モデルに挑戦。

（ウ）これまでの成果

- ・未利用素材や規格外農産物を活用し、超瞬間冷凍・加工技術で周年での販売機会を創出し、フードロス削減につ



なだった。

- ・ 自社製の瞬間冷凍食品を扱う飲食店向けのモデル店舗を立ち上げるとともに、他の飲食店向けの商品開発を行い、県産農産物の流通増に貢献。

ウ プロジェクト名：comorebi commune（こもればこみューン）

（ア）起案代表者：合同会社 comorebi farm 小嶋正太郎（尾道市）

【農業経営体（八朔、安政柑）】

（イ）取組内容

- ・ 因島で、柑橘の半農半Xによる新たな新規就農者育成モデルに挑戦。
- ・ デザインとストーリー性で共感を生む柑橘を使った商品開発・販売を実施。



（ウ）これまでの成果

- ・ 半農半Xでのクリエイターの新たな新規就農モデルの構築を行い、耕作放棄地 9,000 m²の再生と新たな新規就農者 2 名の確保につながった。
- ・ ピエール・エルメや無印良品など様々な企業とコラボし、comorebi farm の八朔を使用したコラボレーション商品が 7 件開発・販売された。

（2）令和 5 年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：Fair-Farm Credit（フェアファームクレジット）

（ア）起案代表者：株式会社 Rev0 本多正樹（安芸高田市）【農業経営体（水稻）】

（イ）取組内容

- ・ 温室効果ガス削減に寄与する水稻の中干し 延長でクレジットを創出・販売。
- ・ 生産者主体で一次産業の脱炭素化の推進モデル創出に挑戦。



（ウ）これまでの成果

- ・ 生産者を束ねる協議会を設立し、中干延長によるクレジット創出に挑戦。（令和 6 年度取組経営体：9 者、取組面積：155.6ha）
- ・ 水稻栽培の中干し期間延長による J-クレジット認証を広島県で初めて取得。創出したクレジットの一部を温室効果ガス排出権の取引として、広島銀行と販売契約を締結。

イ プロジェクト名：MOTTAINAI BATON（モッタイナイバトン）

（ア）起案代表者：MOTTAINAI BATON 株式会社 目取眞興明

（東京都（広島県に移転予定））【販売・サービス業】

（イ）取組内容

- ・ 廃棄される「もったいない」食材を活用したレトルトカレーを企画・開発。
- ・ 学校の探究学習等を通じた「エシカル消費×地域活性化」モデル創出に挑戦。

(ウ) これまでの成果

- ・ これまで廃棄された農水産物をレトルトカレーに加工・販売。(例：向原高校で安芸高田市のチンゲンサイ、青ネギを利用したカレーを製造)。
- ・ 学校の探究学習等で学生と一緒に取り組むことで、県産農産物への理解促進にも寄与した。
- ・ 広島・東京の企業・学校などで「置きカレー」(カレーの無人販売所)を9か所設置し、新しい活用シーンを開拓。



ウ プロジェクト名：FARM TO BABY (ファームトゥベイビー)

(ア) 起案代表者：一般社団法人 KURU KURU 矢野智美

(安芸高田市)【農業経営体(水稻)】

(イ) 取組内容

- ・ 環境に配慮して作られた広島県産米を使い、栄養成分にも配慮したベビー幼児フードを開発・販売
- ・ 特定米穀(くず米)の価値を高める取組に挑戦。



(ウ) これまでの成果

- ・ 安価に取引されている特定米穀や特別栽培米をベビー幼児フードに加工し、玄米スティックやホットケーキミックスなどの商品を開発・販売した。

(3) 令和6年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：地域共創ハレノベジプロジェクト

(ちいききょうそうハレノベジプロジェクト)

(ア) 起案代表者：オタフクソース株式会社 栗田 翼 (広島市)【食品メーカー】

(イ) 取組内容

- ・ 農作物を活用した調味料の開発から販路までをワンストップで支援するサービスを展開。
- ・ 生産者のブランド価値向上と6次産業化を推進



(ウ) これまでの成果

- ・ 東広島市や三次市など県内各地域の生産者の農産物を使用したソースを開発中。

イ プロジェクト名：怪獣レモンプロジェクト (かいじゅうレモンプロジェクト)

(ア) 起案代表者：株式会社瀬戸内百姓 山岡 由明 (尾道市)【地域商社】

(イ) 取組内容

- ・ 瀬戸内産レモンの規格外品を「怪獣レモン」というブランド原料に昇華。
- ・ 大企業とのコラボレーション商品やオリジナル商品を展開

(ウ) これまでの成果

- ・ 大手企業とのコラボを通じた新商品の全国展開を実施。



ウ プロジェクト名：ウェルビーイング野菜プロジェクト

(ウェルビーイングやさいプロジェクト)

(ア) 起案代表者：株式会社ユウゲン（広島市）【農業経営体】

(イ) 取組内容

- ・ ウェルビーイング野菜として新しい流通価値基準を創出。
- ・ 認証の仕組みを構築し、野菜の付加価値向上に貢献

(ウ) これまでの成果

- ・ 全国の硝酸イオン平均値よりも 25%少ない農作物をウェルビーイング野菜として認証する制度を構築し、制度に賛同する生産者が 21 事業者まで広がった。



4 今年度の取組概要

(1) 参加事業者の募集

本事業を推進する特設サイトで、広島県内の農水産事業者や全国の多様な業種の企業の参加募集を開始している。

ア 募集期間

令和 7 年 4 月 30 日（水）～ 7 月 18 日（金）

イ 特設サイト URL

<https://foodbaton.hiroshima-ouen.com/>

ウ 募集テーマ

- いつも美味しい農水産物の価値が味わえるビジネスの創出
- 多品種・多商品型の地域食品加工サービスビジネスの創出
- 地域コミュニティ共創による農水産ブランドビジネスの創出
- 「食」を楽しくする「農水産」体験ビジネスの創出
- フードロス減らす新たなエシカル消費型ビジネスの創出
- 環境価値を活用した食の循環経済ビジネスの創出
- 多様な人材ネットワーク活用によるワークシェアビジネスの創出
- 農水産物を適時に安定供給できるサプライチェーンビジネスの創出
- 市場ニーズを踏まえた農水産物開発・販売の最適化ビジネスの創出

エ 募集セミナーin 広島市の開催

日時：令和7年5月16日（金）14:00～16:00

場所：イノベーション・ハブ・ひろしま Camps

（広島市中区紙屋町1-4-3 エフケイビル1F）

内容：主に本プログラムへの応募をご検討中の企業を対象とした募集セミナー

【第1部】プログラム募集案内、採択事業者（オタフクソース株式会社）による事例紹介

【第2部】採択事業者との交流会、個別相談会

オ 募集セミナーin 東広島市の開催

日時：令和7年5月20日（火）15:00～17:00

場所：東広島イノベーションラボ ミライノ+

（東広島市西条岡町10-10 ベに屋ビル1F）

内容：主に新たな挑戦を始めたいとお考えの意欲的な農水産事業者を対象とした募集セミナー

【第1部】プログラム募集案内、採択事業者（株式会社Rev0、一般社団法人KURU KURU）による事例紹介

【第2部】採択事業者との交流会、個別相談会

カ オンライン個別相談会の開催

【実施日時】令和7年5月1日（木）～7月11日（金）

【申込方法】上記の特設サイト URL 内の申込フォームから申込。

(2) プロジェクトチームの立ち上げ

今後、応募事業者に対し、事業構想の作成支援、農水産事業者と企業のマッチング、プロジェクトの実行計画の作成支援を行い、秋までに3件のプロジェクトの立ち上げを行う予定である。

(3) プロジェクトの実行計画に基づく新たなビジネスの実現に向けた支援等

- ・新商品や新サービスの提供に向けた専門家による課題解決支援
- ・現地実証に係る経費の支援
- ・今年度支援件数 9件

【支援件数内訳】

新規採択（令和7年度採択）：3件、採択2年目（令和6年度採択）：3件、
採択3年目（令和5年度採択）：3件

5 予算（単県）

46,500千円